



限られた時間と空間の中で

校長 町田 大樹

今年度の運動会は例年とは異なる特別な運動会となりました。昼食会場の問題や、本校の校庭が工事中という事情もあって、二日間開催、二つの会場で実施させていただきました。ご不便をおかけしたのにもかかわらず、多くのご参観をいただき、ありがとうございました。

特に二日目当日は PTA 役員の皆様に受付を手伝っていただいたり、登下校の見守りに30名を超えるにこにこ防犯隊の皆様が参加してくださったりと、本当に多くの方のご協力に支えられながら実施できた運動会となりました。また、参観にあたって2回に分けて来校いただいた保護者の皆様をはじめ、ご協力いただいた全ての方に感謝申し上げます。

今回の運動会は限られた時間と空間だからこそ工夫できた運動会だったように思います。9月23日の団結式以降、約1ヶ月にわたり、演技・競技の練習、あるいは運営に向けた準備を進めてきました。応援団は全校での応援練習ができないために、声を出さなくてもできる応援グッズのプリントをつくり、当日の朝にも各学年を回って参加の仕方を伝えていました。また、運動会実行委員の児童は新聞を発行したり、全校のメッセージを集めたりして、みんなの気持ちを高める取り組みをしていました。各学年の練習では当日に見ることができないペア学年の演技を見合い、拍手を送り合う、温かい場面も見られました。リレーの選手がバトンを借りて自主練習をしたこともありました。子どもたちが自分たちで考え、成功させたいという思いが一つ一つの活動につながったと思います。運動会が近づくにつれて、子どもたちの表情が生き生きと変わってくるのを感じました。子どもたちの笑顔も増え、心地よい緊張感も感じるようになりました。運動会で力を発揮したいという大きなエネルギーが学校全体に満ちていったように思います。限られた時間と空間だからと、子どもたちが主体的に考え、行動する姿に感心せずにはいられませんでした。



子どもたちのメッセージが書かれた「思いやりの輪」

感染症対策における制限は長期化し、社会では経済の立て直しと感染予防の両立に向けてステージが変化してきています。学校も教育活動と感染予防の狭間で、子どもたちが笑顔となり、成長の糧となり得る学びの保証を最大限確保していきたいと思っています。特に、6年生にとっては、今年度が小学校生活最後の一年です。教育的意義を考慮し、このような状況の中でも何とか心に残る一年になるように、修学旅行の実施に向けて、教職員、旅行先の関係者とも話し合いを重ねてきました。これからも感染症対策を講じながら様々な計画を立てていきます。引き続き保護者の皆様のご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。